

2015年 第41号 発行 橋本 和子



すずらんジャーナル

船橋市議会議員

はしもと 和子

市民相談はお気軽に 公明党控室 436-3032

希望の未来へ!あなたと市政のかけ橋に

『笑顔で・誠実・迅速に』をモットーに『笑顔の庶民派NO. 1』

を目指し、現場を歩き、対話に動いてまいります。

## 消防団員の確保策

消防団のことを知らない若者が多い気がします。消防団員の確保策として若者へのアピールが必要と考え、取り組みを伺いました。



- \* 小学校での消防訓練に地元の消防団や女性消防団が参加し、消防団の活動や役割を子ども達に理解してもらい、その様子などケーブルテレビを通じて情報発信している。
- \* 高校や大学の構内に消防団を紹介するリーフレットやポスターなど掲示して啓発活動を行っている。
- \* 今後は、若い世代に向けた情報発信として、フェイスブックやツイッターなどの活用について、調査研究をしていく。

平成27年第2回定例議会の報告をさせていただきます。

## 「船橋市附属機関等の設置及び運用に関する指針」について

少子高齢化と人口の減少が進む日本では、将来を担う「若者」の力を引き出す取り組みが欠かせません。そしてさらに、必要なのは、若者が積極的に政治に参加できる環境づくりで



す。若者に関する政策を検討する審議会等では、若者の発言が反映されるように、構成員の登用に、概ね30歳代までの若者の登用に努める必要があります。



審議会等の委員ですが、あまりにも一人の方に負担がかかっているのではないかと思いを質問をしました。

### 「船橋市附属機関等の設置及び運営に関する指針」

第4条（2）【委員に占める女性の比率は、30%以上に高めるように努める。】

第4条（5）【委員がその職責を十分に果たし得るよう、1人の者が就任することができる審議会等の数は、5機関以内とする。ただし、専門的な知識・経験を有する者が他に得られない場合など、特別の事情が認められる場合はこの限りでない。】

第4条（7）【委員は、行政への市民の意見反映等の観点から、幅広い年齢層から選ぶものとする。】

**橋本** 松戸市長は、かねてから、「船橋には、人材が沢山いる」と言われています。私も、人材は沢山いると思います。船橋を今以上に元気にする、これからの船橋を盛り上げていくためにも、審議等の内容により、若者(概ね30歳代まで)の登用に努めていただきたいと思います。

いくつもの審議会が、同じ団体へ推薦依頼するのは、やむを得ない事ですが、その団体の役員の中で、手分けをすれば



©NEW KOMETTO

いいと思います。次回改選時から、1人5機関までと徹底すべきと思います。

**総務部長** 若い方に市の政策などに関心を持って頂き、自ら審議会等に参加することは、大変意義があると思う。今後、審議会等の設置目的や審議内容により、若い方に委員をお願いするように努める。また、1人に負担がかからないように、1人5機関までを徹底する。

## 最高峰の音楽環境に触れさせよう！



©NEW KOMETTO

市内の学校では、マーチングバンドを始め、箏曲・吹奏楽・ギターなど優秀な成績を収めています。

より多くの一流の演奏等に触れる機会を多く持つて頂きたいと要望しました。

# 学校と「保健と福祉の総合相談窓口さーくる」について

「さーくる」を活用することにより、問題を抱えた児童・生徒の家族全体の支援が出来るのではないかと思います。先生方も、問題を抱えた児童・生徒の背景には、家庭が問題を抱えていることを認識しています。そのような家庭を、「さーくる」が相談に乗ることにより、児童・生徒の健全育成や不登校などの問題解消につながる可能性があります。学校が「さーくる」につなげることで、困りごとを抱えた市



民を、より多く救うことができます。子どもたちが安心して、学校に通えるようにしてあげたいと思いますので、様々な機会を通して、「さーくる」を利用していただきたいと思います。

**「さーくる」電話 047-495-7111**

月～金曜日（開庁日のみ） 9:00～17:00

\*詳しくは、<http://funabashi.gijiroku.com/>をご覧ください。

はしもと 和子 090-5574-9079

ホームページ [hashimoto-kazuko.jp](http://hashimoto-kazuko.jp)

市政に関するご意見・ご感想をお寄せください。

S.35年生まれ 長野県軽井沢町生まれ 小諸商業高等学校卒業

八十二銀行入行 S.57年より船橋市在住 H.27年より保護司

